

(3) 学歴

いずれの教団も高卒以上の学歴の者が半数以上を占めている(表1)。ブラジル地理統計院によるレシーフェ都市圏のデータと筆者の調査結果を比較すると信者の学歴が平均的に高いことがわかる。ブラジルでは学歴が収入の程度と密接な関係にあることから、日本の新宗教とカルデシズムでは信者の多くは暮らし向きが安定しているように伺える。しかし、天理教信者には中学卒までの人の割合が44.6%ともっとも多い。一方、PL教団では高卒以上が83.7%、生長の家では91.6%である。天理教とこれら二つの教団には信者の社会層に違いがあることがわかる。

ここで明らかになった信者の社会層にみられる違いは、拠点が置かれている地理的要因に起因するところが大きいように思われる。天理教会とカルデシズムの拠点は同じ地区にあり、レシーフェ市の中心部から車で30分ほどのところに位置する。当該地区は概ね中産層が居住する住宅街だが、天理教会から少し奥まったところに入れば低所得者層の居住区が広がっている。天理教会が建てられた1980年代、教会の周囲には空き地が広がっていた。しかし、そこを低所得者層が不法占拠して、バラック小屋が建てられるようになった。現在、それらはレンガ造りの家に建て替えられてきているとはいえ、下水が路地にあふれ出ているところがあったりして決して好ましい環境ということではできない。天理教やカルデシズムの信者の中にはそのような地区に住んでいる人たちもいる。カルデシズムの場合、低所得者層への物資配給といった慈善活動を信仰実践の要の一つに据えていることからわかるように、そうした地区に住む低所得者層の信者を引きつけやすいとすることができる(Vol.15 No.8参照)。

それでは、生長の家とPL教団はどうだろう。これら二つの教団の拠点は、市の中心街で商店街や学校が多い地区に位置し、近くのバスターミナルには市内のあらゆるところから人が集まってくる。徒歩10分圏内にはペンテコステ系プロテスタント教会の3つの大きな拠点教会もある。立地条件のこのような選択は教団の布教拡大戦略の結果だといえるだろう。市の中心部には様々な社会層の人たちがやってくるとはいえ、生長の家とPL教団の場合には、家庭の主婦のみならず、会社帰りのサラリーマンや学校の教員など、一日の仕事を終えて集まってくる姿も伺える。

(表1) 学歴

学歴	天理教		PL教団		生長の家		カルデシズム		レシーフェ都市圏
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	%
小卒	6	9.2	6	7.0	3	3.6	2	5.1	54.4
中卒	23	35.4	8	9.3	4	4.8	11	28.2	25.2
高卒	21	32.3	48	55.8	43	51.8	16	41.0	13.9
大卒	15	23.1	24	27.9	33	39.8	10	25.6	6.5
計	65	100.0	86	100.0	83	100.0	83	100.0	100.0

注：レシーフェ都市圏の数値は、IBGE, Pesquisa Nacional por Amostra de Domicílios, 1987

(4) 以前の宗教と調査時点の宗教

ある人が特定宗教の集会に通っているとしても、信者としての自覚を持っているかどうかは定かではない。また、新たな宗教を信仰するようになる場合には、以前の宗教とのかかわりを確認しておくことも重要だろう。新しい信念体系を獲得するプ

ロセスは様々だが、概して①傍観的に新しい宗教を眺める程度から始まり、②入信の時点で以前の宗教と一線を引くことになるだろう。しかし入信後も、③以前の信念体系を維持しながら新しい宗教を受け入れていくということもあるだろう。ここでは、それらのパターンの違いを①傍観型、②回心型、③重複型と呼んで区別することにしたい。

そこで調査結果を確認してみよう。まず以前の宗教については、4つの教団とも元々それらの信者だったという人がいる(表2)。親から信仰が伝えられたというケースである(天理教6人、PL教団19人、生長の家2人、カルデシズム13人)。そのほかはカトリック信者の数が圧倒的に多く、ブラジルの宗教風土を如実に反映していることがわかる。しかし、ここで注目したいのは、カルデシズムからの移行である。すでに考察したように(Vol.15 No.5)、カルデシズムでは輪廻転生が説かれており日本の新宗教の教えと親和性が高い。元カルデシズム信者が多いのは教義の連続性にあるとみられる。

(表2) 以前の宗教 (人数)

	天理教	PL教団	生長の家	カトリック	プロテスタント	カルデシズム	アフロブラジリアン	なし	その他	計
天理教	6	0	0	52	2	6	1	0	0	67
PL教団	0	19	0	64	4	10	2	0	0	99
生長の家	0	0	2	64	5	12	1	0	0	84
カルデシズム	0	0	0	21	1	13	0	4	0	39

(表3) 調査時点の宗教 (人数)

		天理教	PL教団	生長の家	カトリック	プロテスタント	カルデシズム	アフロブラジリアン	なし	その他	小計	計
		単	55	0	0	1	0	0	0	0	0	56
重	0	0	0	5	4	2	0	0	0	11		
PL教団	単	0	78	0	5	0	1	0	0	0	84	99
	重	0	0	0	11	1	3	0	0	0	15	
生長の家	単	0	0	25	19	1	2	0	0	0	47	84
	重	0	0	0	23	4	6	3	0	1	37	
カルデシズム	単	0	0	0	2	0	35	0	2	0	39	39
	重	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

次に、調査時点の宗教を確認しよう(表3)。このうち、「単」は選択した宗教のみを信仰しているという場合で、「重」は重複型を示している。そこで、傍観型と回心型の人数も確認してみよう。傍観型は調査時点の宗教の「単」で示された人数のうち、当該宗教以外を選んでいるケースである。たとえば、天理教でそれに相当するのはカトリックを選んだ1名となっている。また、回心型は調査時点の宗教から親譲りの信者とみなされる人数を差し引いた人数と見做したい。とすると同じく天理教では49名となる。他の宗教についても同様に算出してまとめたのが表4である。

このうち生長の家の結果に注目したい。この教団は重複型と傍観型が他の教団に比べて高い。そして回心型が低い数値になっている。このことは、生長の家への入信が「真のキリスト教信者」になることだと説く同教団の特徴を表していると言えるだろう(Vol.16 No.1参照)。

(表4) 入信のタイプ

	傍観型		回心型		重複型		親譲り		計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
天理教	1	1.4	49	73.1	11	16.4	6	8.9	67
PL教団	6	6.1	59	59.6	15	15.1	19	19.1	99
生長の家	22	26.2	23	27.3	37	44.0	2	2.4	84
カルデシズム	4	10.3	22	56.4	0	0	13	33.3	39